

JAとりで通信

第365号

2021年3月26日



発行 JAとりで総合医療センター 〒302-0022 茨城県取手市本郷 2-1-1 E-mail: toride@medical.email.ne.jp 発行人 富満 弘之
TEL 0297(74)5551 (代) URL http://www.toride-medical.or.jp/

新型コロナ ウイルス

ワクチンの優先接種始まる 医療関係者と 消防署員に接種

当院は新型コロナウイルスワクチンが届けられる施設（基本型施設）となつていきます。県や保健

所の指示に従って、本院を含めた取手市内の医療機関数か所にワクチンを分配し、新型コロナウイルス



ワクチンを接種する富満院長



ワクチン接種の受付

ルス感染症の方々を担当する医療関係者や消防署員を優先して接種して行くことになりました。

3月5日にワクチンの第一弾が195本(975人分)当院に納入され、その内の108本を他の医療機関に分配しました。当院では3月8日から医療従事者の優先接種が開始され、3月19日までに当院のワクチン接種対象職員1006名の内285名が1回目のワクチン接種を受けました。(3月19日現在の予定では)3月22日の週には、救急隊員等の消防関係者と近隣の開業している医療従事者105名への接種が行わ

れます。3月中旬に初回接種を終えた方は3週間後に2回目の接種を受けていただくことになっていきます。

また最近の新型コロナウイルスの感染傾向から、近隣の高齢者施設や透析施設の職員の皆様がPCR検査をより受けやすい環境を調べ、感染者の早期発見につなげたいという狙いから、当院でPCR検査を請け負うことを各施設にお知らせしたところ、12施設からPCR検査依頼の希望がありました。今後、各施設ごとに対応していく予定です。

「癒しグッツセット」を千セット

2月25日、株式会社リープコーポレーション様(取手市戸頭)から入浴剤や癒しの香りアイテム等が入った「癒しグッツセット」が1000セット寄贈されました。同社の森正幸代表取締役様は「少しでも病院の皆さんの心にひびいてもらえばと思います、寄贈させていただきましたことにしました。こちらのセットを組む際に、病院の皆さんのご苦勞を想いながら会社のスタッフ同士が相談し合って品物を選んでいただきましたのでスタッフの感謝の気持ちも一緒に受け取って頂ければと思います。本当にJAの皆さんの努力があっ

て私たちがこの様に生活できていると思っていまして」とご挨拶を頂き、富満院長は「私たちが支援していただくお気持ちに對して本当に感謝いたします。職員が自宅でリラックス出来るよう利用させて頂きます。」とお礼を述べました。



寄贈される森正幸代表取締役様(左端)

看護部

2020年度ウオードコンペ 全員が前向きに頑張つて

18部署から業務改善等を報告

看護部の2020年度ウオードコンペが3月2日に開催され、業務改善や働き方改革、新型コロナ

ウイルスへの感染防止対策の取り組み等について18部署から報告されました。会場の講堂は席を空けて着席するなど対策がとられて125名が参加しました。

この中で外科病棟は「時間外の短縮に向けて点滴の変更時間の見直しや、物品の補充方法の変更にどに取り組んだ結果、時間外労働を約60%削減できました。その自分のため

の時間が増えたり、子供さんの話をゆっくり聞けるようになったと喜ばれている。今後もチームワークの良さを活かして業務改善に取り組みしていきたい」と報告しました。全部署の報告終了後、普段の身だしなみやヒヤリハットのレポート件数なども含めて総合的に評価し、病棟部門ではICU、外来部門では健康管理センターが表彰され、猪瀬看護部長代行からトロフィーが授与されました。

表彰されたICUの永山友美看護師は「スタッフ全員が前向きに考えて頑張ってくれたおかげです」と挨拶し、健康管理センターの酒巻かな枝保健師も「自部署の業務改善の難しさを他部署の方



ウオードコンペの様子

初の「ビデオコンサート」好評でした

CS委員会は昨年の11月下旬、入院患者さんにくつろいで頂こうと初めてビデオコンサートを開催しました。脳神経外科科長の上田泰弘医師(バ



演奏する鈴木助産師さんと上田医師

イオリン)と新棟4階病棟の主任で助産師の鈴木Atsumi(景子さん(ピアノ)がヴァイオリンソナタ「春」第一楽章やリベラタンゴなど5曲を演奏し、病室のテレビで患者さんに観て頂いたところ「演奏に涙が出た」、「病院のスタッフが演奏していいすこい」といった感想がよせられ好評でした。CS委員会では、今後もビデオコンサートの出演者を募りながら開催できるように検討しています。

フレイル

第5回「フレイルと骨折」
リハビリテーション部
技師部長 豊田 和典



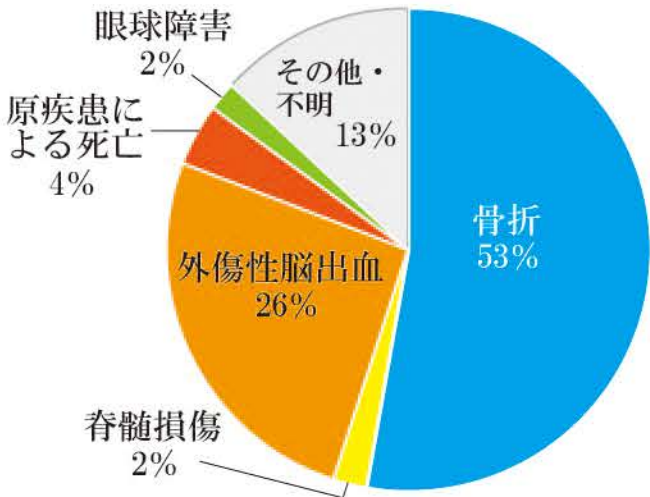
要介護状態の原因は、12・5%が「骨折・転落」であり、フレイル状態は転倒する危険性を高めるとこれまでお話ししてきました。「転倒・転落」により何らかの障害が残ってしまう可能性が高い疾患として骨折が半分を占めており(図1)、骨折による寝たきり、要介護状態となることを予防し、健康寿命を延ばすためには転倒予防が大事になってきます。

転倒による “四大骨折”

転倒した高齢者の約1割が何らかの骨折を生じていると言われますが、転倒によって起こりやすい骨折として“四大骨折”と呼ばれるものがあります。肩の骨折である上

図1

転倒・転落による高度障害残存の内訳



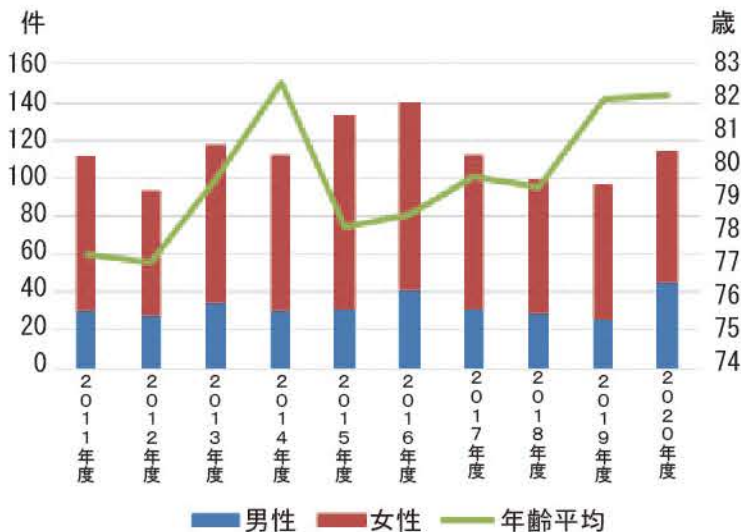
奥泉宏康：高齢者における転倒・転落の発生状況とその要因
理学療法 37 (10) : 868-876, 2020 より改変

腕骨近位端骨折、手首の骨折である橈骨遠位端骨折、背骨の骨折である脊椎椎体骨折、股関節の骨折である大腿骨近位部骨折です。これらは、骨粗鬆症による骨脆弱性(骨の脆さ)を背景として起こります。実は、フレイル状態は、骨の健康にも影響を与えています。骨粗鬆症の有病率が健常者で16・4%であったのに対し、フレイルでは21・5%、フレイルでは42・5%であったというデータもあります。このように、フレイル状態であることは骨が脆くなりやすく、さらに転倒する危険性も高いため、より骨折が起こりやすいのです。「転倒・転落」により何らかの障害を残してしまう骨折の約78%を大腿

骨近位部骨折が占めています。当院では、年間90(140)件前後の手術を行っています。約70%を女性が占め、平均年齢は上昇傾向です(図2)。手術後の経過(図3)としては、当院での平均入院日数は年々減少傾向ではありますが、当院を含む回復期病棟へ転院する割合が増え、高齢化の影響もあってか、より期間をかけたリハビリテーションが必要となっています。80歳以上の大腿骨近位部骨折患者の2年生存率は50%以下で、骨折していない人と比べ大幅に低下するとされ、生命予後と健康寿命、どちらも伸ばすためには転倒予防、フレイル予防が大事になってくるのです。

図2

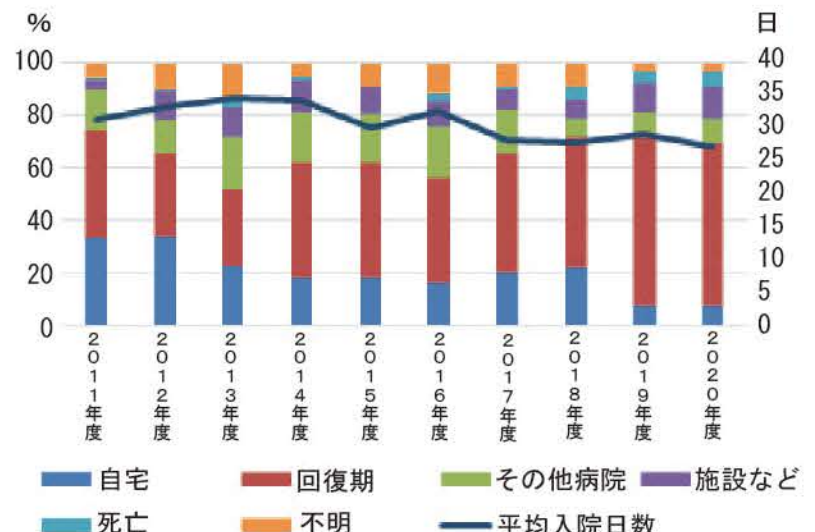
当院における大腿骨近位部骨折手術件数



(副院長 整形外科部長 鈴木康司医師より提供)

図3

術後転帰先



(副院長 整形外科部長 鈴木康司医師より提供)

お知らせ

皆様で作成された作品、また皆様のペットを当広報紙でご紹介させて頂くコーナー「みんなの掲示板」を設けますので、掲載をご希望の方は下記の通りお願い致します。なお、掲載の可否は当院で決定させていただきます。応募された写真データはご返却できませんのでご了承ください。

- 募集内容** 手芸品(写真)、絵画(写真)、写真、書道(写真)、俳句、川柳、陶芸等(写真)、ペット(写真)など
- 応募方法**
 - 写真データ(JPEG、2M以内)をメールに添付してお送りください。
 - 俳句、川柳はメールでお送りください。
 - ご紹介の文を150字以内でメールでご提出ください。
 - お名前、大まかなご住所(例:取手市)、ご連絡先の電話番号をメールに記載してください。
- 応募先** JAとりで総合医療センター広報室宛て
E-mail toride@medical.email.ne.jp



わたしの家族

我が家のかわいいワンコを紹介します。2人ともビションフリーゼという真っ白フワフワなワンコです。お兄ちゃんの「ぼーん」は10歳ですがドックパークに行くと猛ダッシュで駆け回ります。弟の「ぼーん」も8歳とは思えないくらい元気です。食べるのが大好きで「ごはん」「りんご」の言葉にとっても敏感です。コロナ禍で気分が落ち込んでもこの2人のニコニコな笑顔で癒されます。 ICU 脇田